

# 関西経済レポート

中国・アジア向けの輸出増加に牽引されて、生産は持ち直しの動きが続いているものの絶対水準は依然として低い。消費は、全体として低調だが、耐久消費財向けの経済対策の効果や景気の持ち直しなどにより、一部に上向きの動きがみられる。

先行き不透明感が払拭できず、バランスシート調整が続く中で、設備投資は弱い動きが続く。住宅投資は、政策効果による今後の動きを期待。

2010年5月20日

関経連経済調査部

## ～目次～

政府・日銀の景況判断	1
日銀短観	2
生産、大口電力需要	4
輸出入	6
個人消費	10
住宅投資	12
株価為替の動き	14
倒産	15
雇用	16

# ～政府・日銀の景気判断～

	<b>近畿</b>	近畿地区金融経済概況 日銀大阪支店	<b>中部</b>	金融経済月報 日銀名古屋支店	<b>全国</b>	金融経済月報 日銀	<b>全国</b>	月例経済報告 内閣府
2009年3月	⇒	大幅に悪化している。	⇒	急速に下降している。	⇒	大幅に悪化している。	⇒	急速な悪化が続いており、厳しい状況にある。
2009年4月	↘	大幅に悪化しており、厳しい状況にある。	⇒	急速に下降している。	⇒	大幅に悪化している。	⇒	急速な悪化が続いており、厳しい状況にある。
2009年5月	⇒	大幅に悪化しており、厳しい状況にある。	↗	引き続き下降しているが、その度合いは緩やかになっている。	↗	わが国の景気は悪化を続けているが、輸出や生産は下げ止まりつつある	↗	景気は、厳しい状況にあるものの、このところ悪化のテンポが緩やかになっている。
2009年6月	↗	厳しい状況にあるが、悪化のテンポは和らいできている。	↗	輸出と生産の持ち直し等から、下げ止まりつつある。	↗	大幅に悪化したあと、下げ止まりつつある。	↗	厳しい状況にあるものの、一部に持ち直しの動きが見られる。
2009年7月	↗	なお厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある。	↗	輸出と生産の持ち直し等から、下げ止まっている。	↗	わが国の景気は下げ止まっている。	↗	厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
2009年8月	⇒	なお厳しい状況にあるが、下げ止まりつつある。	⇒	輸出と生産の持ち直し等から、下げ止まっている。	⇒	わが国の景気は下げ止まっている。	⇒	厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
2009年9月	↗	なお厳しい状況にあるが、下げ止まっている。	↗	東海3県の景気は、持ち直しつつある。	↗	わが国の景気は持ち直しに転じつつある。	⇒	失業率が過去最高水準となるなど厳しい状況にあるものの、このところ持ち直しの動きがみられる。
2009年10月	↗	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、持ち直しの動きがみられる。	⇒	東海3県の景気は、持ち直しつつある。	↗	わが国の景気は持ち直しつつある。	↗	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2009年11月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、持ち直しの動きがみられる。	⇒	東海3県の景気は、持ち直しつつある。	↗	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	⇒	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2009年12月	↗	近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している。	↗	東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。	⇒	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	⇒	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2010年1月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、緩やかに持ち直している。	⇒	東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。	⇒	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	⇒	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2010年2月	↗	近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、持ち直している。	⇒	東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。	⇒	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	⇒	景気は、持ち直してきているが、自律性に乏しく、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。
2010年3月	⇒	近畿地域の景気は、雇用面などに引き続き厳しさを残しつつも、持ち直している。	⇒	東海3県の景気は、業種間・企業間の格差が大きいものの、全体としては持ち直している。	⇒	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、内外における各種対策の効果などから持ち直している。	↗	景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。
2010年4月	↗	近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、着実に持ち直している。	↗	東海3県の景気は、持ち直しを続けており、業種間・企業間の格差も徐々に縮小している。	↗	わが国の景気は、国内民間需要の自律的回復力はなお弱いものの、海外経済の改善や各種対策の効果などから、持ち直しを続けている。	⇒	景気は、着実に持ち直してきているが、なお自律性は弱く、失業率が高水準にあるなど厳しい状況にある。

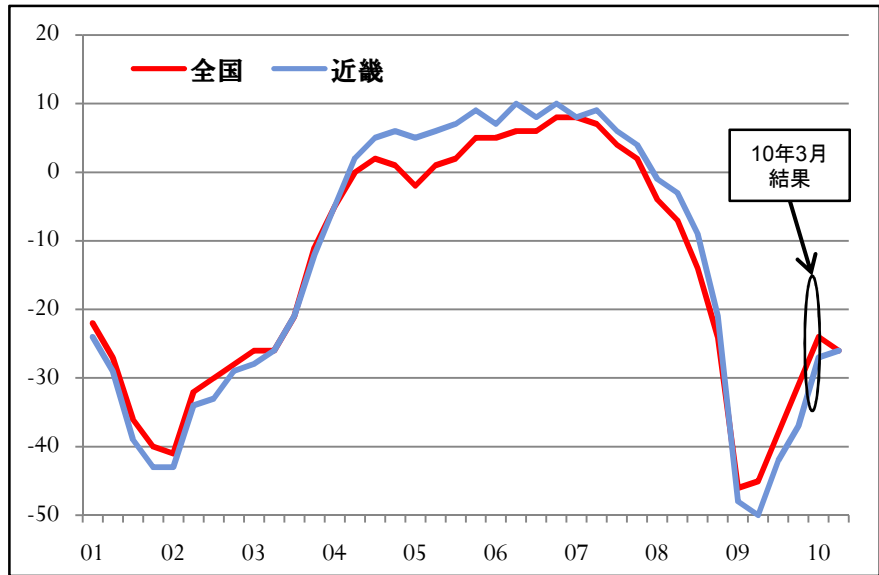
○日銀大阪支店は4月の景況判断を

「**近畿地域の景気は、雇用面などに厳しさを残しつつも、着実に持ち直している。**」とした。（3月から改善）

「輸出は、アジア向けを中心に増加している。生産は、輸出の増加や省エネ家電への政策支援を背景に、増加している。このため、企業の景況感も、製造業を中心に改善の動きが続いている。一方、内需についてみると、設備投資は、企業収益の改善が続く中、下げ止まりに向けた動きがみられている。個人消費は、耐久消費財が政策効果により持ち直している一方、雇用者所得の減少が続く中、その他の分野では弱い動きが続いている。この間、公共投資は増勢が鈍化している。」とした。

# ～日銀短観～

業況判断DI (2010年3月結果まで)



(出所) 日本銀行

- 近畿の業況判断DI (2010年3月結果まで)
  - ・ 近畿の業況判断DIの3月結果は全産業▲27と、12月調査(▲37)から+10ポイント、三四半期連続の改善。12月調査時予測(▲35)を上回った。
  - ・ 近畿の先行き見通しは▲26と、足下からほぼ横ばい。
  - ・ 全国は、全産業▲24と、12月調査(▲31)から+7ポイント、4四半期連続の改善。  
近畿と同様、12月調査時予測(▲33)を上回った。
  - ・ 全国の先行きは▲26と、足下より悪化する見通しになっている。

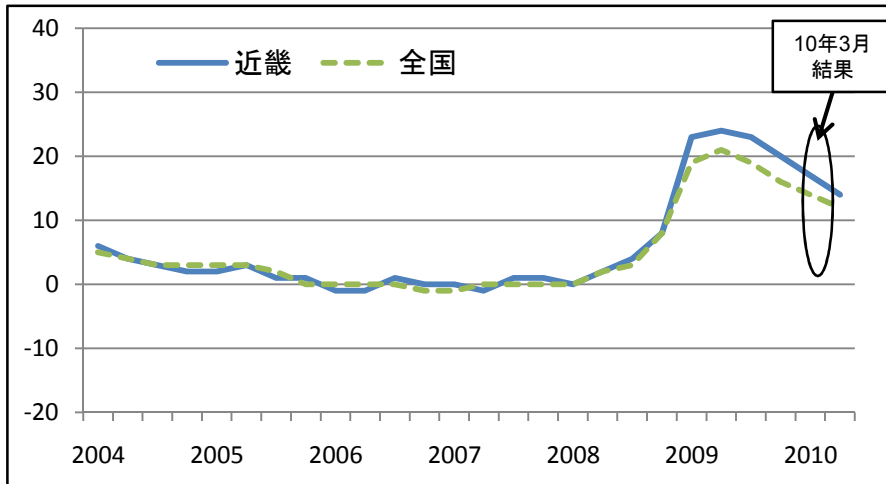
規模・業種別内訳(2010年3月結果まで)

近畿			
	2009年 12月	2010年 3月	先行き 6月
全産業	▲37	▲27	▲26
大企業	▲27	▲15	▲11
中小企業	▲46	▲37	▲38
製造業	▲38	▲25	▲23
大企業	▲26	▲12	▲10
中小企業	▲53	▲37	▲34
非製造業	▲36	▲28	▲29
大企業	▲26	▲19	▲12
中小企業	▲41	▲36	▲40
全国			
	2009年 12月	2010年 3月	先行き 6月
全産業	▲31	▲24	▲26
大企業	▲23	▲14	▲9
中小企業	▲37	▲31	▲35
製造業	▲33	▲23	▲22
大企業	▲25	▲14	▲8
中小企業	▲41	▲30	▲32
非製造業	▲30	▲25	▲28
大企業	▲21	▲14	▲10
中小企業	▲34	▲31	▲37

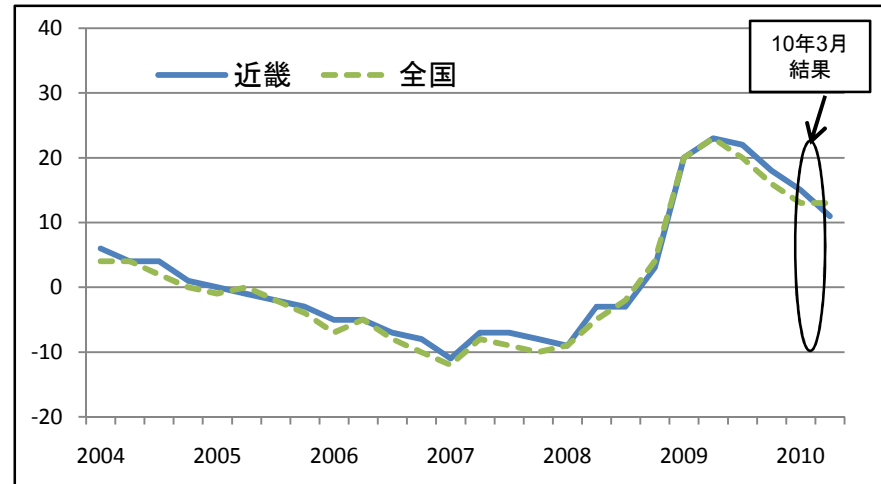
- ・ 足下、12月調査時から、製造業が+13ポイント、非製造業が+8ポイントの改善。先行きでは製造業が+2ポイント、非製造業が▲1ポイント。
- ・ 規模別では、中小企業は足下・先行きとも厳しい見方が続く。

# ～日銀短観～

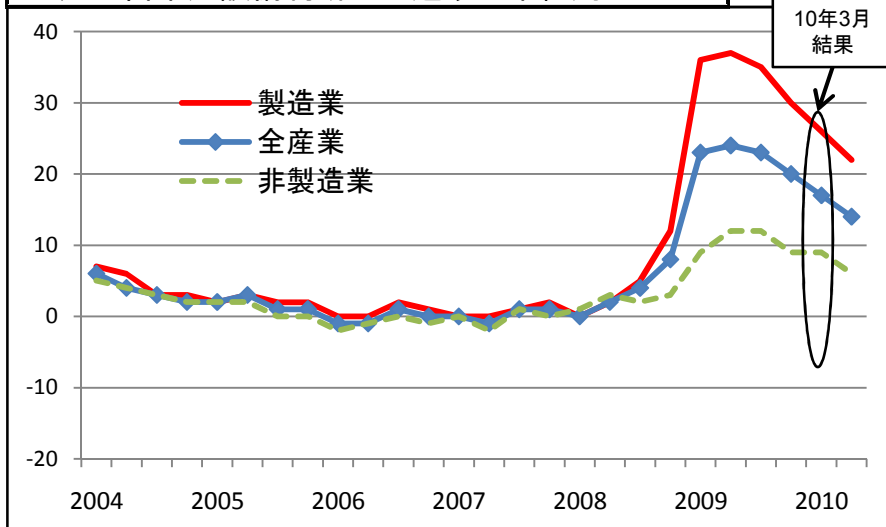
生産・営業用設備判断DI (「過剰」-「不足」)



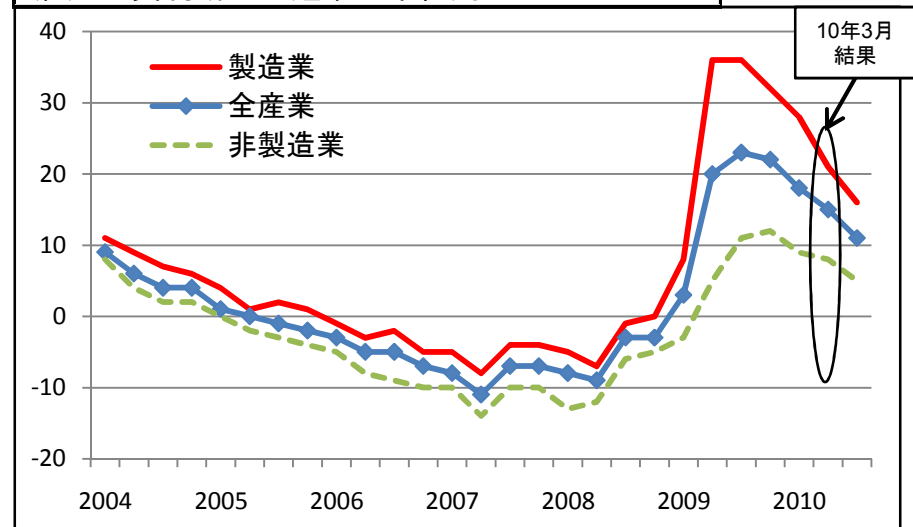
雇用人員判断DI (「過剰」 - 「不足」)



生産・営業用設備判断DI 近畿・業種別



雇用人員判断DI 近畿・業種別

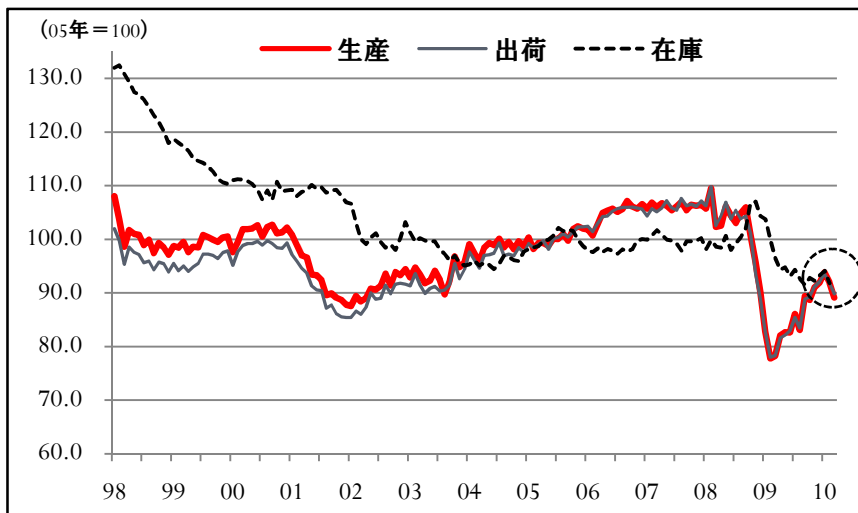


○10年3月の日銀短観によると、近畿の足下の設備判断DIは、全産業17、製造業26、非製造業9で、特に、製造業で過剰感が高い。先行きは、緩やかではあるが改善の見込み。  
○全国も同様の傾向。

○10年3月の日銀短観によると、近畿の雇用人員判断DIは、全産業15、製造業21、非製造業8で、設備同様、製造業で過剰感が高い。先行きは、緩やかではあるが改善の見込み。  
○全国の先行きは13と、足下から横ばいの見込み。

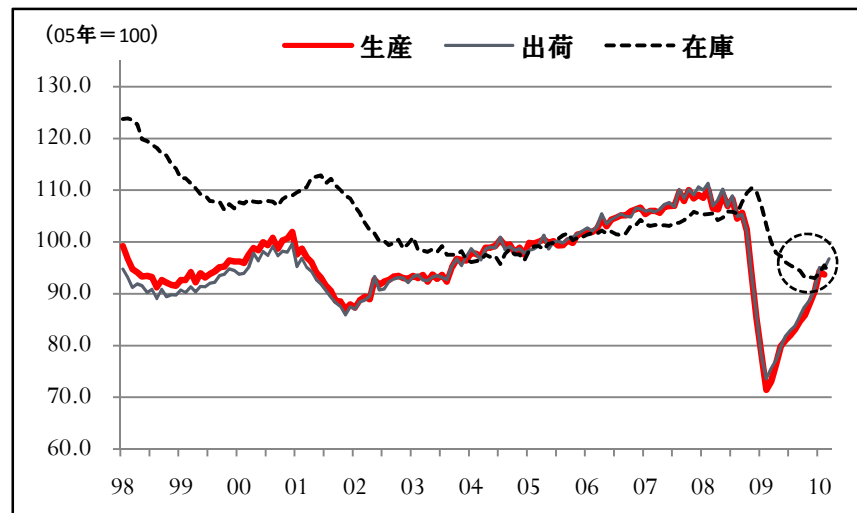
# ～生産～

鉱工業指数の推移（近畿 2010年3月速報まで）



(出所) 近畿経済産業局

鉱工業指数の推移（全国 2010年3月確報まで）



(出所) 経済産業省

## 業種別鉱工業 生産指数 (前月比、%)

\*網掛は、生産が  
前月比プラスの業種

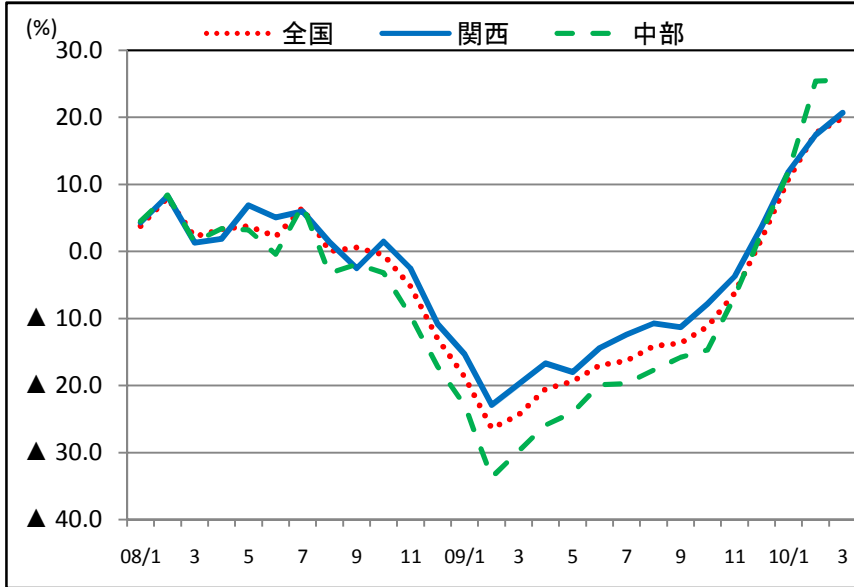
	全体	鉄鋼	金属製品	一般機械	電気機械	情報通信 機械	電子部品 デバイス	輸送機械	化学	食料品 たばこ
近畿12月	1.0	▲1.8	2.2	9.1	4.9	5.1	20.3	▲7.8	▲2.6	▲2.8
近畿1月	2.1	3.3	1.9	▲4.2	▲6.5	2.5	▲9.8	5.4	3.8	3.5
近畿2月	▲2.0	2.1	9.8	▲1.0	▲2.8	▲0.3	▲5.9	▲2.6	2.6	▲2.3
近畿3月	▲3.0	2.8	▲18.0	▲7.3	7.0	▲5.3	2.4	▲7.3	▲4.6	0.2
全国3月	1.2	3.2	▲4.2	▲3.5	6.4	▲4.7	1.7	1.7	4.6	0.7

- ・近畿の3月（速報）の鉱工業生産指数は、89.1。前月比▲3.0%と2カ月連続の低下。  
出荷は前月比▲2.2%の89.8と、2カ月連続の低下。在庫は、前月比▲2.4%の91.8と3カ月ぶりの低下。  
生産低下に寄与したのは、金属製品工業、一般機械工業、化学機械工業(除医薬品)など。品目別にみると、橋りょう、半導体製造装置、コンベヤの順に低下に寄与。上昇したのは電気機械工業、鉄鋼業、電子部品・デバイス工業等。
- ・全国の3月（確報）の鉱工業生産指数は、前月比+1.2%の94.8。2カ月ぶりの上昇。  
出荷は、前月比+2.0%の96.7と2カ月ぶりの上昇。在庫は、前月比▲1.6%の94.0。  
業種別では、電気機械工業、輸送機械工業、鉄鋼業等が上昇。一般機械工業、金属製品工業、情報通信機械工業等が低下。  
品目別では、医薬品、電気測定器、電力変換装置、普通乗用車等が上昇に寄与。製造工業生産予測調査によると、4月上昇、5月低下を予測。

(注)全国の2009年1月以降の数値は、2010年2月確報公表時に年間補正が実施されている。

# ～生産～

産業用大口電力需要（対前年伸び率・2010年3月まで）

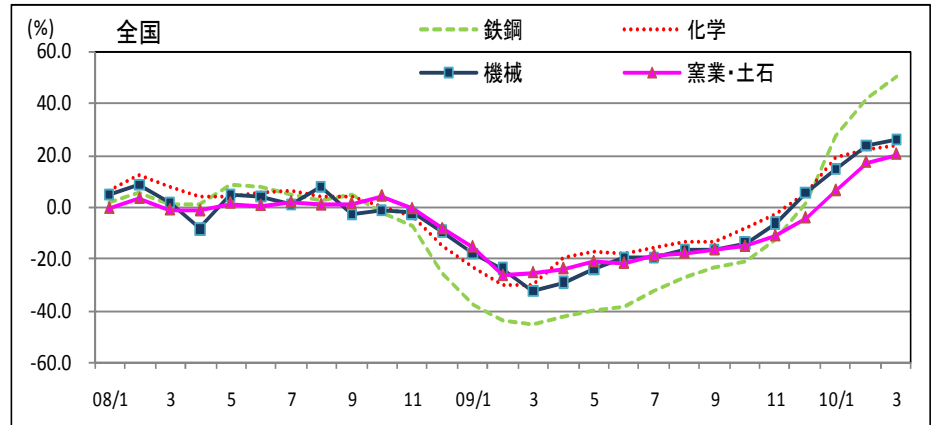


(出所) 電気事業連合会

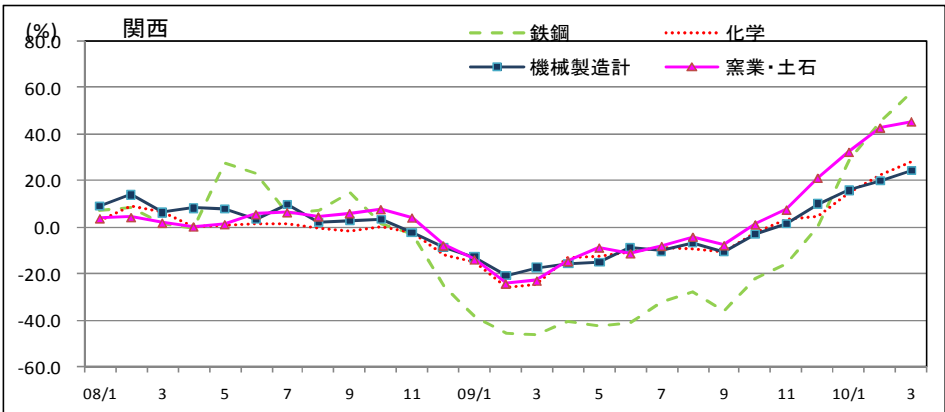
・3月の関西の大口電力実績は、前年同月比+20.7%と、4カ月連続で前年実績を上回った。前月(+17.4%)からプラス幅は拡大。全国は+19.9%で、4カ月連続で前年実績を上回った。

・業種別(関西)では、製造業10業種中9業種が対前年比プラス。

大口電力産業別実績（対前年伸び率 2010年3月まで）



(出所) 電気事業連合会



(出所) 関西電力

大口電力産業別実績（対前年伸び率 2010年3月まで・関西）

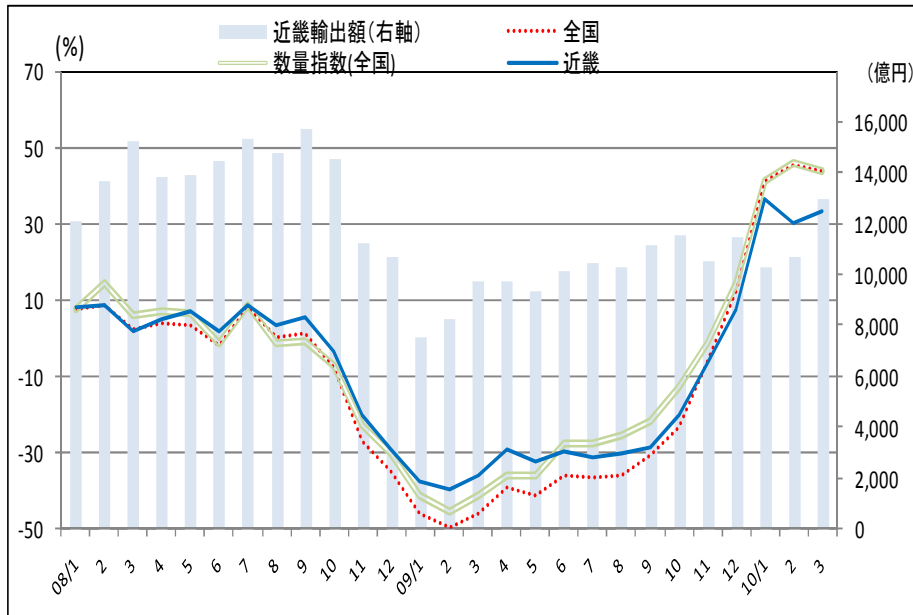
	食料品	繊維	パルプ・紙	化学	石油・石炭	ゴム製品	窯業・土石	鉄鋼	非鉄金属	機械製造計
11月	▲ 0.3	▲ 6.1	▲ 3.7	3.4	▲ 22.4	▲ 9.0	7.4	▲ 15.6	▲ 13.6	1.4
12月	▲ 1.8	▲ 5.1	1.5	4.5	14.7	2.6	21.0	0.2	▲ 5.0	9.9
10年1月	▲ 2.1	▲ 6.3	4.8	14.7	18.4	7.3	32.1	28.5	5.3	15.8
2月	▲ 2.6	1.3	7.0	22.7	8.3	18.7	42.4	45.4	17.2	19.8
3月	0.3	▲ 9.2	10.0	28.2	25.8	25.5	45.1	57.9	19.8	24.2

\*網掛は、伸び率が前年比プラスの業種



# ～輸出～

輸出金額・前年同月比増減率推移（2010年3月速報まで）

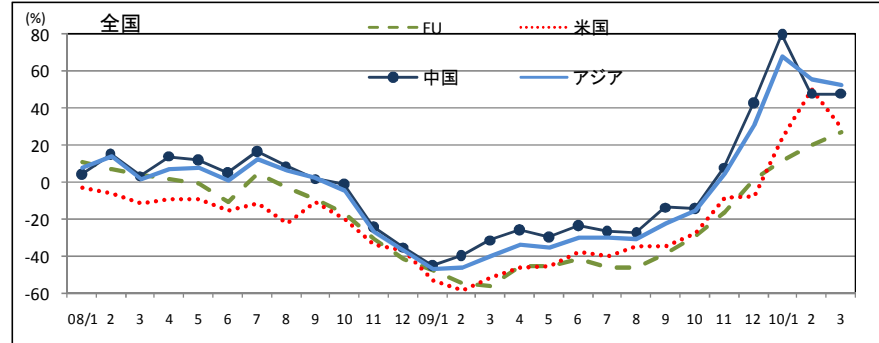
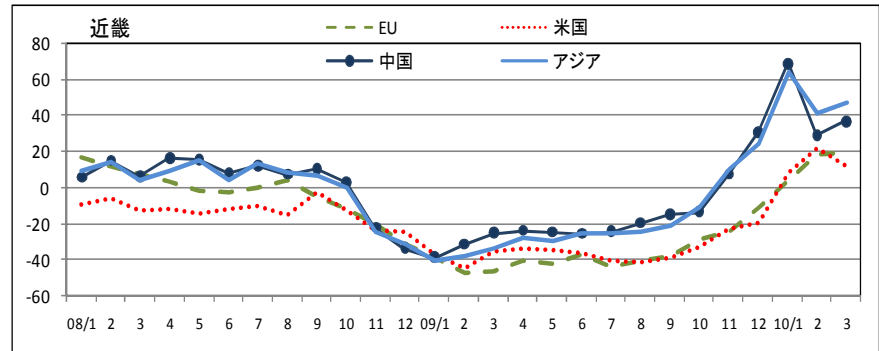


出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

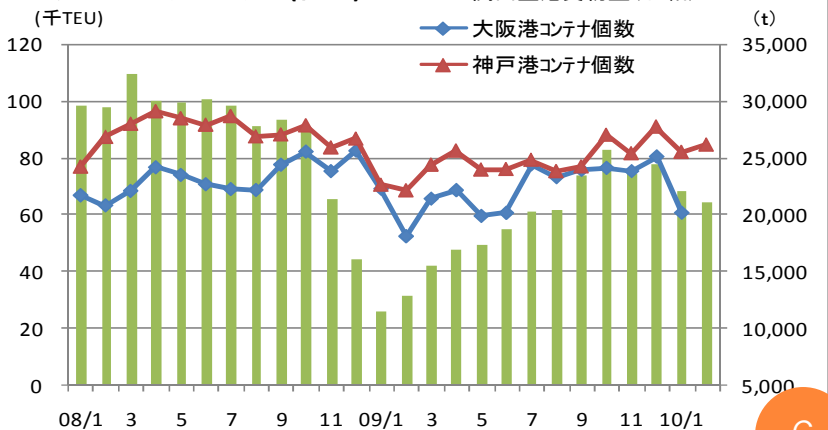
○近畿の月次の輸出動向（2010年3月速報まで）

- ・ 3月の近畿の輸出額は1兆2942億円、前年同月比+33.1%と4カ月連続の前年比プラス。前年の落ち込みの影響から、プラス幅は大きい。全国も4カ月連続プラスの+45.3%。
- ・ 地域別では、アジアが+46.3%、うち中国が+36.7%と、ともに5カ月連続で大幅なプラスとなっている。EUは+18.8%、米国は+11.5%と、ともに3カ月連続のプラス。
- ・ 品目別では、半導体等電子部品(過去最高額)、プラスチック、電気回路等の機器、等が増加に寄与。台湾向け集積回路、韓国向けフラットパネルディスプレイ用フィルム、等で増加。
- ・ 数量を表す貿易指数(全国3月)は前年比+44.0%と、3カ月連続プラス。大阪港・神戸港・関空の貨物量は、09年1月を底に回復傾向。

地域別輸出金額・前年同月比推移（近畿）



近畿・港別貨物取扱量(輸出)

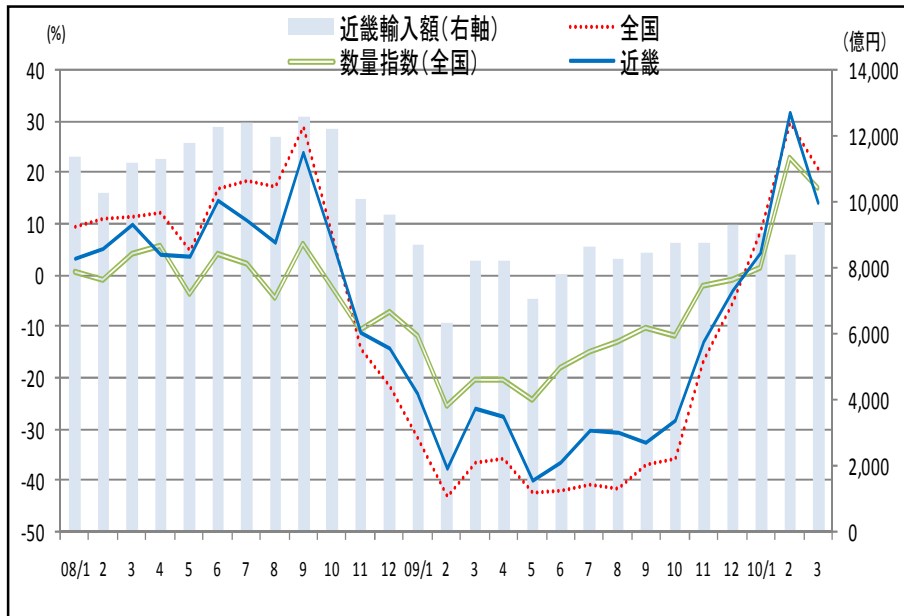


出所：大阪市、神戸市、関西国際空港株 資料



# ～輸入～

輸入金額・前年同月比増減率推移（2010年3月速報まで）

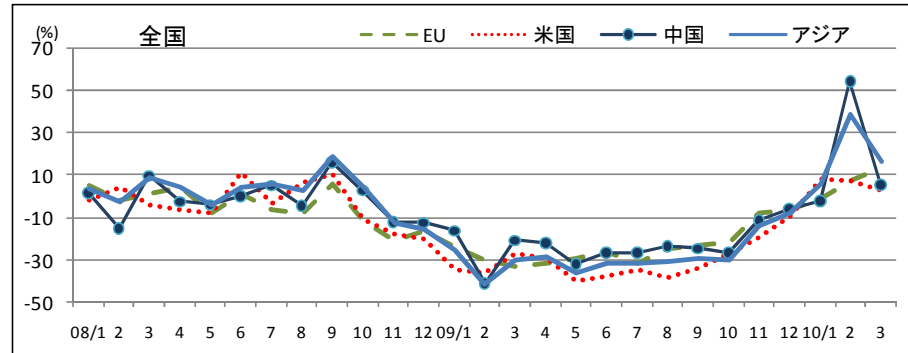
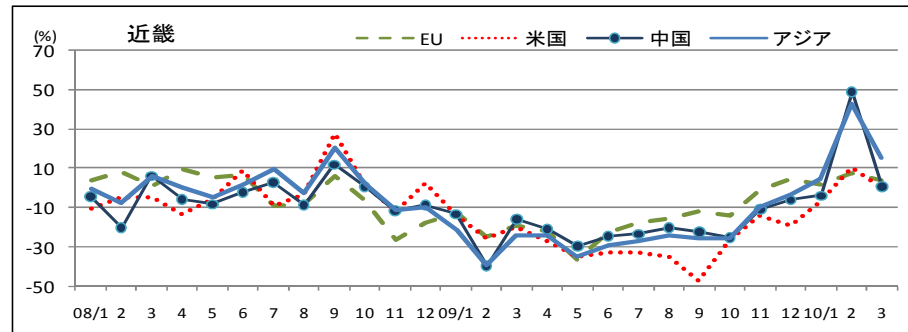


出所：財務省税関(全国)、大阪税関(近畿) 資料

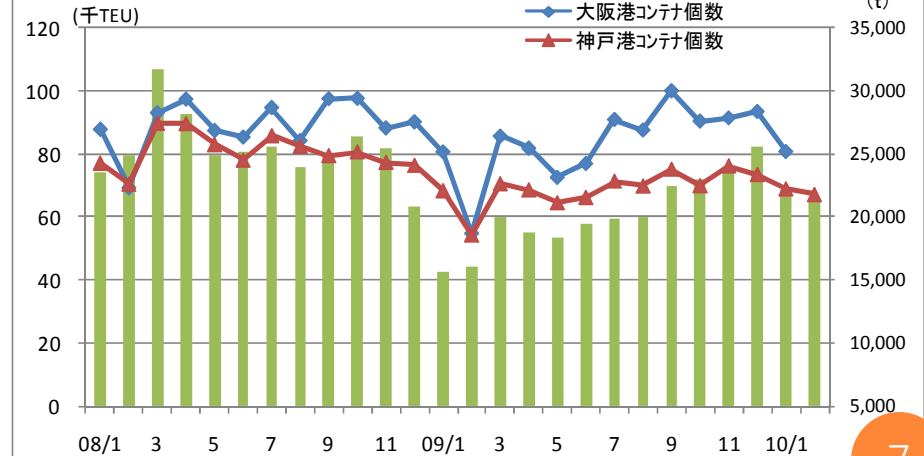
## ○近畿の月次の輸入動向（2010年3月速報まで）

- ・ 3月の近畿の輸入額は9,353億円、前年同月比+13.9%と、3カ月連続のプラス。
- ・ 地域別では、アジアが+15.3%と3カ月連続、EUが+4.3%と4カ月連続のプラス。アジアのうち中国が+0.9%、米国が+0.7%と、ともに2カ月連続のプラス。
- ・ 品目別では、天然ガス及び製造ガス、原油及び粗油、医薬品、音響・映像機器(含部品)、等が増加に寄与。
- ・ 数量を表す貿易指数(全国3月)は、前年同月比+17.0%と、3カ月連続のプラス。  
大阪港・神戸港・関空の貨物量は、09年1月を底に回復傾向。

地域別輸入金額増減前年同月比推移・内容比較



近畿・港別貨物取扱量(輸入)

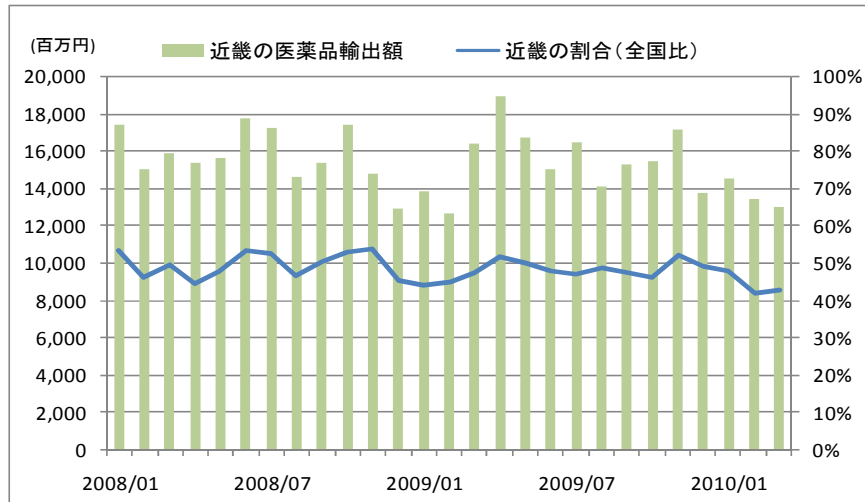


出所：大阪市、神戸市、関西国際空港(株) 資料

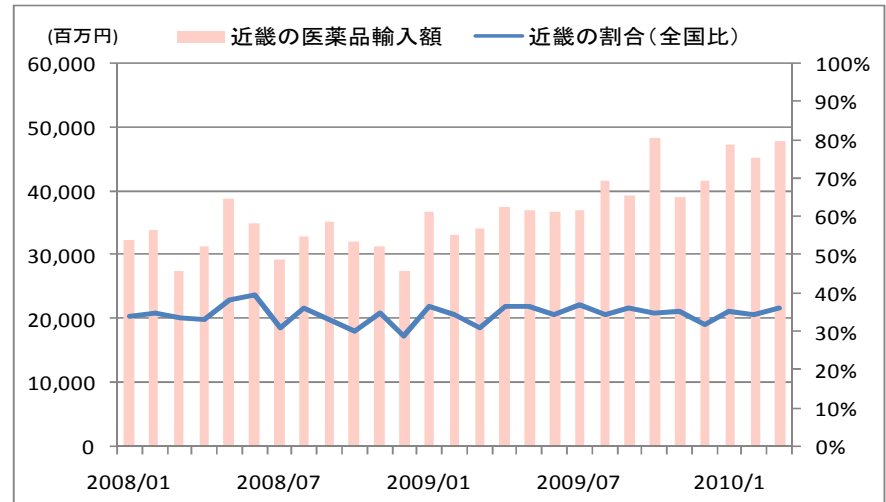
# 関西経済トピックス ～医薬品の輸出入動向～

○2009年に入り、近畿全体の輸出入額は減少したものの、医薬品の輸出入額については、昨年同月を上回る月もあり、比較的堅調。

近畿の医薬品輸出額の推移



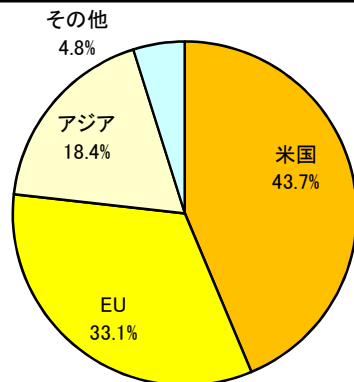
近畿の医薬品輸入額の推移



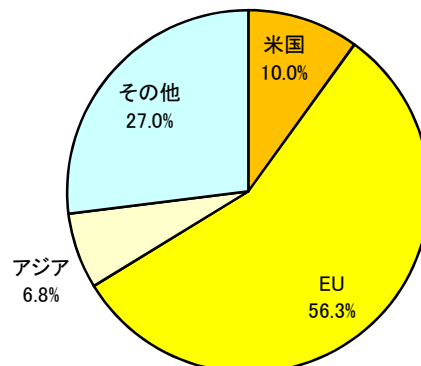
○近畿の医薬品輸出額は、2008年秋以降一時落ち込んだものの、2009年に入り増加。2009年後半は減少傾向にあったが、輸出全般の落ち込みに比べると堅調。2010年3月の輸出額は130億円、前年同月比▲20.8%と2カ月ぶりのマイナス。2009年、年間の輸出額は1,853億円、前年比▲1.9%。  
○3月の近畿の医薬品輸出額は、全国の42.7%と高い割合を占めている。

○近畿の医薬品輸入額は、引き続き増加基調にある。3月の輸入額は479億円、前年同月比+39.6%の増加。  
2009年、年間の輸入額は4,631億円(前年比+19.2%)と、過去最高額。  
○3月の近畿の医薬品輸入額は全国の36.1%と、高い割合を占めている。

近畿圏の医薬品輸出先 (2009年)



近畿圏の医薬品輸入先 (2009年)

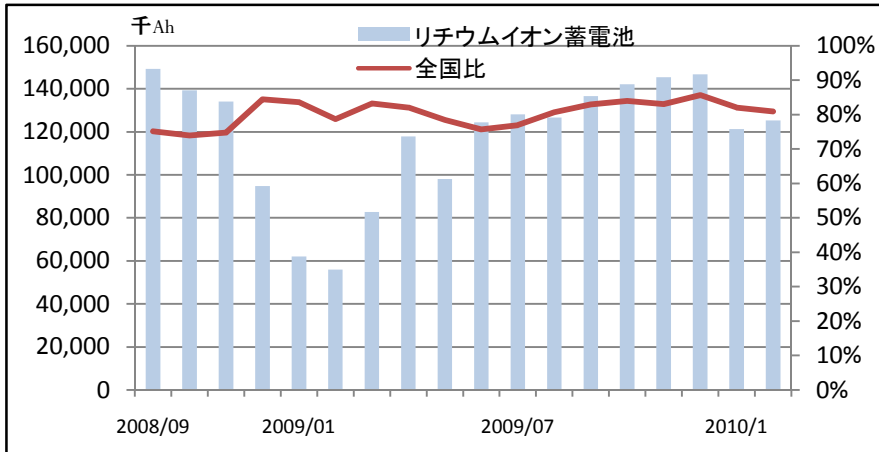


○近畿圏の医薬品は、輸出入とも全国に占める割合は高い。

○輸出入先は、欧米の占める割合が高い。  
輸出先は、米国が43.7%、EUが33.1%を占める。  
輸入先は、米国が10.0%、EUが56.3%を占める。

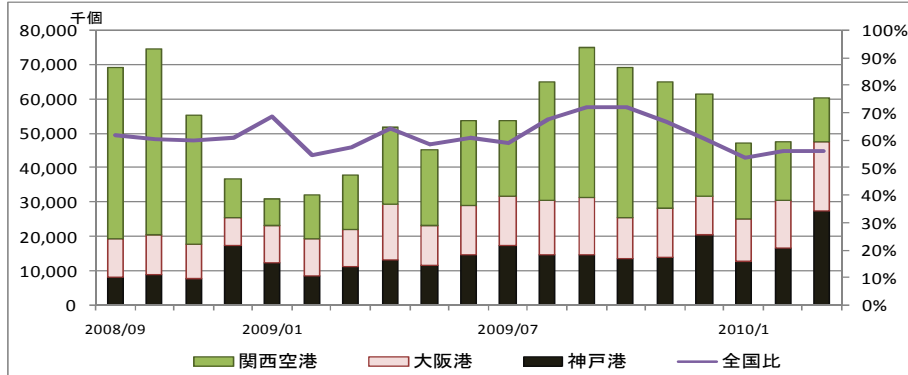
## ～電池産業の生産拠点集積～

リチウムイオン蓄電池 生産量の推移(近畿)



出所：経済産業省、近畿経済産業局 資料

リチウムイオン電池(蓄電池) 輸出の推移(大阪港、関西空港、神戸港)

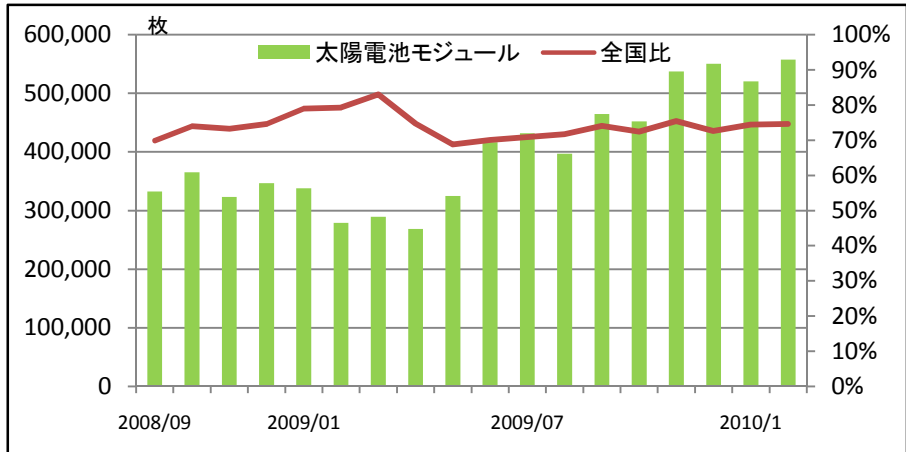


出所：財務省、大阪税関 資料

○近畿のリチウムイオン蓄電池の生産は、09年に入り落ち込んだが、足下回復基調が続く。2010年2月の生産量は、前年の反動もあり前年同月比+124.0%と大幅に増加。全国に占める割合も高く、2月は、81%。

○近畿のリチウムイオン電池の輸出は、09年に入り落ち込んだ後回復。足下は09年9月をピークに減少しているものの、3月は前年同月比+59.1%。全国に占める割合も高く、3月は、56%。

太陽電池モジュール 生産量の推移(近畿)

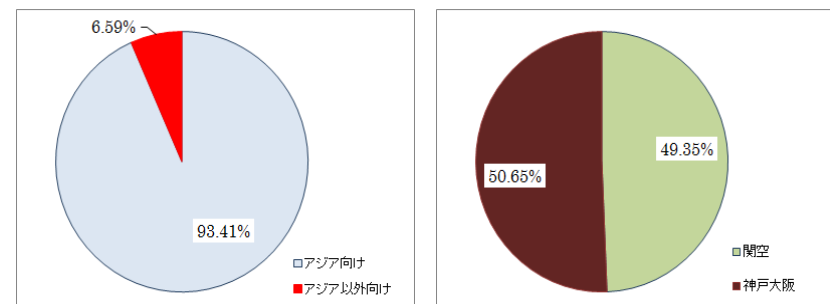


出所：経済産業省、近畿経済産業局 資料

○近畿の太陽電池モジュールの生産枚数は、09年に入り、減少したものの、政策の後押しもあり、足下、増加傾向が続く。2010年2月は、557,277枚、前年同月比+99.8%。

○全国に占める割合が70～80%台と高く、2月は75%。

2009年リチウムイオン電池 輸出先(大阪港、関西空港、神戸港) 及び、輸出港



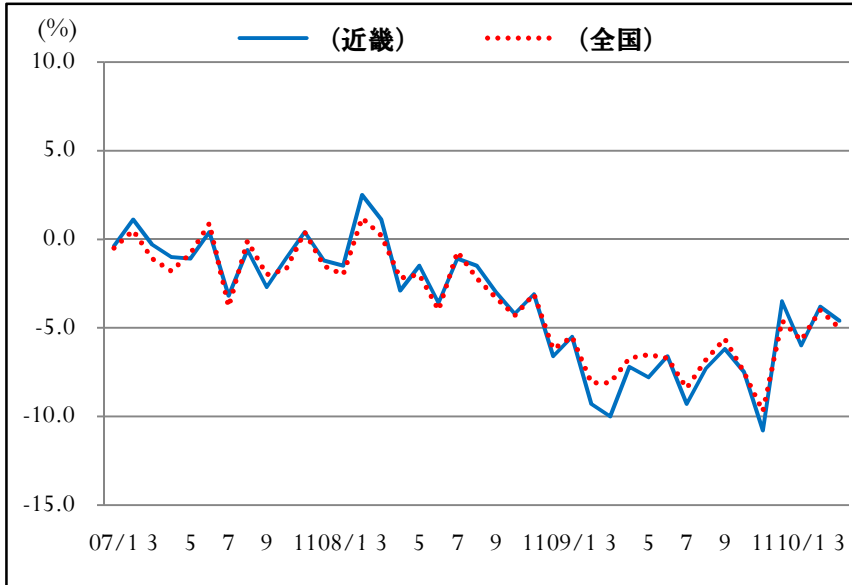
出所：財務省、大阪税関 資料

○アジア向け輸出が93.41%を占めた。中国が56%と最も多く、韓国12%、香港9%と続く。

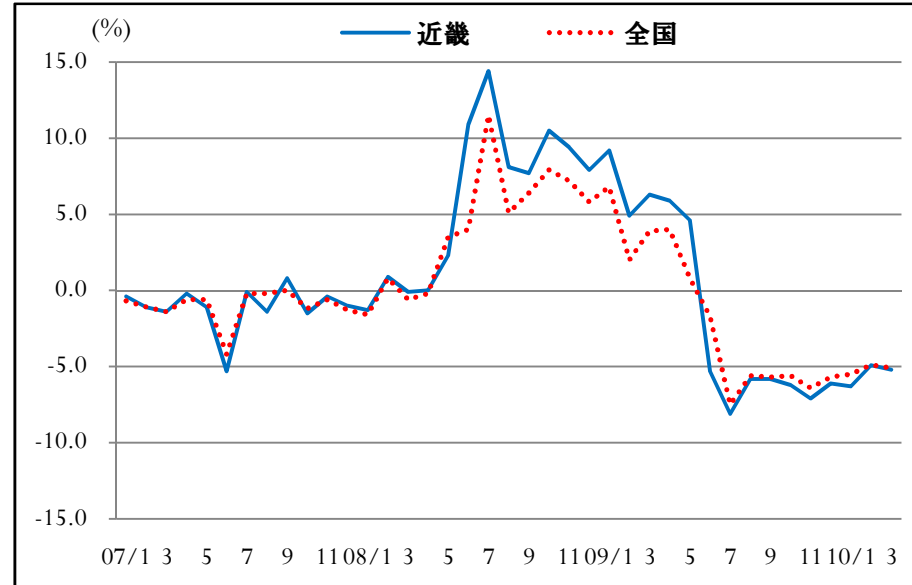
○輸出港は、大阪+神戸港51%、関西空港49%とほぼ同じ。

## ～個人消費～

大型小売店売上高（前年同月比・2010年3月まで）



コンビニエンスストア販売額（前年同月比・2010年3月まで）



（出所）近畿経済産業局

- ・ 近畿の3月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(既存店ベース)は、前年同月比▲4.6%と24カ月連続のマイナス。前月(▲3.8%)からマイナス幅は拡大。全国は同▲5.0%。
- ・ 前年に比べ日曜日が1日少なかったことや、天候不順、生活防衛意識が依然根強いことなどにより厳しい状況。

- ・ 3月の近畿のコンビニエンスストア販売額(既存店ベース)は、前年同月比▲5.2%と9カ月連続のマイナス。前月(▲4.9%)からマイナス幅が拡大。全国は同▲5.1%と、近畿同様前月(▲4.9%)からマイナス幅が拡大。

### 最近の動向（ヒアリング結果より）

#### （百貨店）

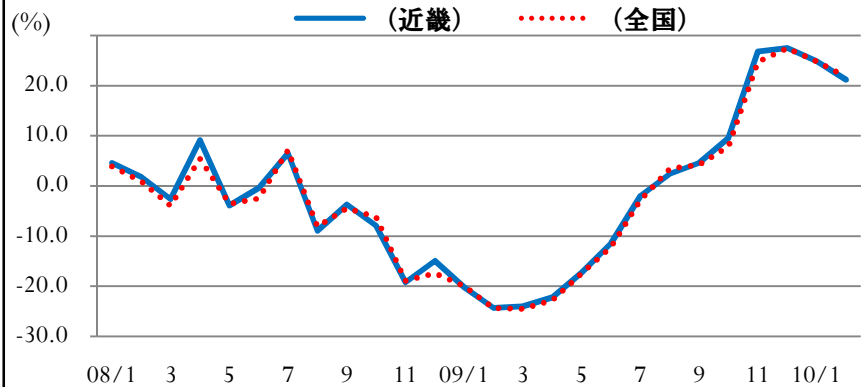
- ・ 2月は、アクセサリ、ハンドバック等の身回品が好調。高級絵画にも動きが見られた。
- ・ 訪日中国人等、外国人客数は確実に増加。一昨年までは急激な勢いで伸びていたが、燃油サーチャージ・円高・新型インフルエンザ流行等の影響から一旦落ち込んだ。09年10月頃から、回復傾向が続く。婦人洋品・化粧品等が人気。

#### （スーパー）

- ・ 4～5年前から衣料品などが売れなくなり、食料品でカバーしていたが、リーマンショック以降、食料品も前年割れが続く。客数・単価ともに減少しており、ついで買い、衝動買いが見られない。節約志向というより、「生活防衛」という意識が高まっている。

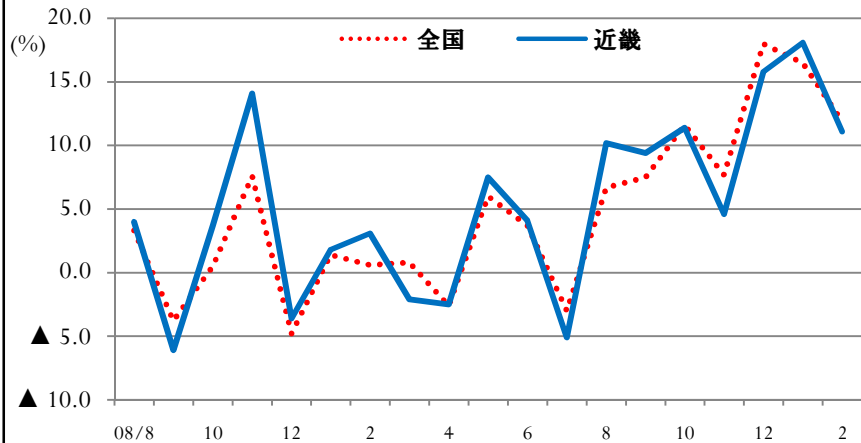
# ～個人消費～

新車登録台数（前年同月比・2010年2月まで）



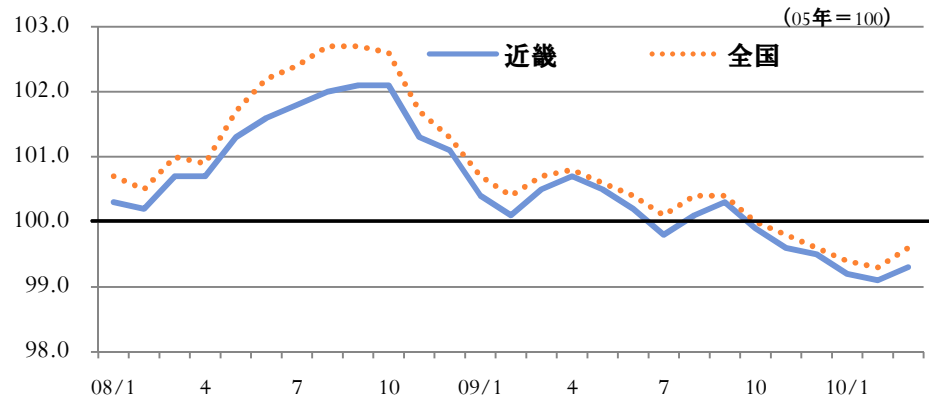
・近畿の2月の新車登録台数は、前年同月比+21.2%。  
 車種別では普通車+63.0%、小型車+15.4%、軽四車▲2.9%。  
 (出所) 近畿経済産業局

家電販売額（前年同月比・2010年2月まで）



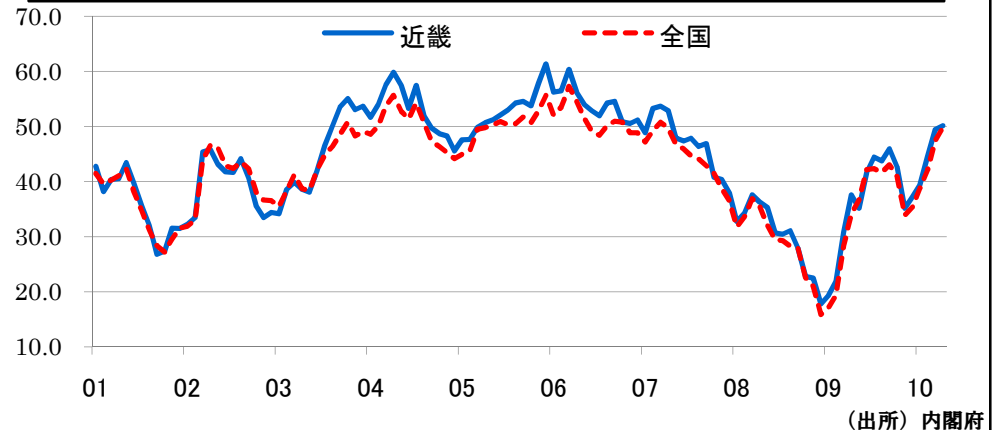
・近畿の2月の家電販売額は、前年同月比+11.1%と7カ月連続の前年比プラス。カラーテレビ(+28.8%)、エアコン(+21.6%)、冷蔵庫(+17.0%)、オーディオ(+16.8%)等で増加。  
 (出所) 近畿経済産業局

消費者物価指数（総合指数・2010年3月まで）



・近畿の3月の消費者物価指数(総合指数)は99.3と、6カ月ぶりに前月比+0.2%の上昇。前年同月比では▲1.2%の低下。  
 食料(酒を除く)及びエネルギーを除く総合指数は97.6で、前月比+0.4%、前年同月比▲1.1%  
 (出所) 総務省

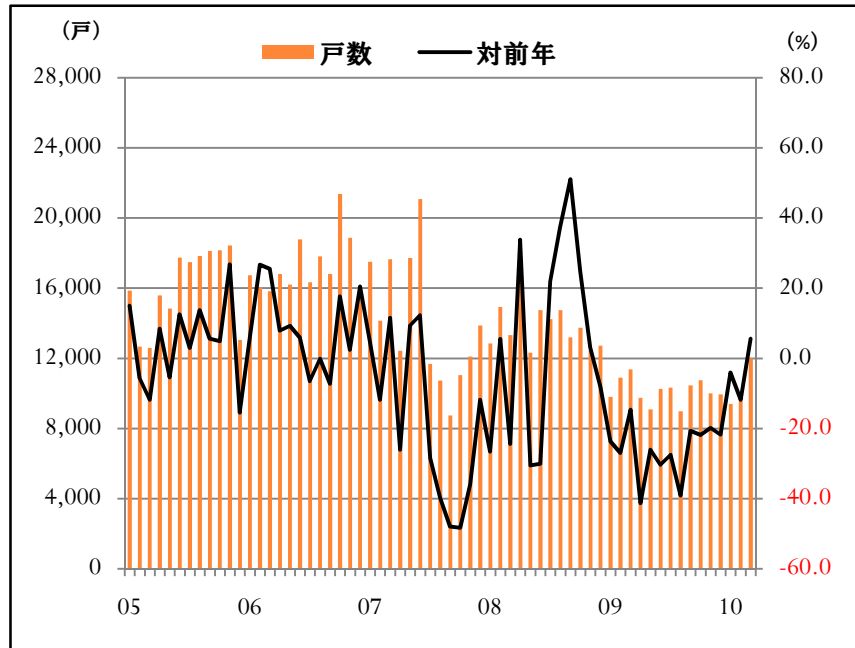
景気ウォッチャー調査(現状判断DI・方向性 2010年4月まで)



・4月の近畿の現状判断DIは50.2で、前月比+0.7ポイント、5カ月連続の上昇。全国は前月比+2.4ポイントの49.8。  
 ・家電の販売増は鈍化しているものの、エコ減税効果の継続、低価格志向が続くなかではあるが、購買意欲に回復の動きが見られること、等から上昇。  
 ・近畿の先行き判断DIは50.9、前月比+2.0ポイント上昇。  
 (出所) 内閣府

## ～住宅投資～

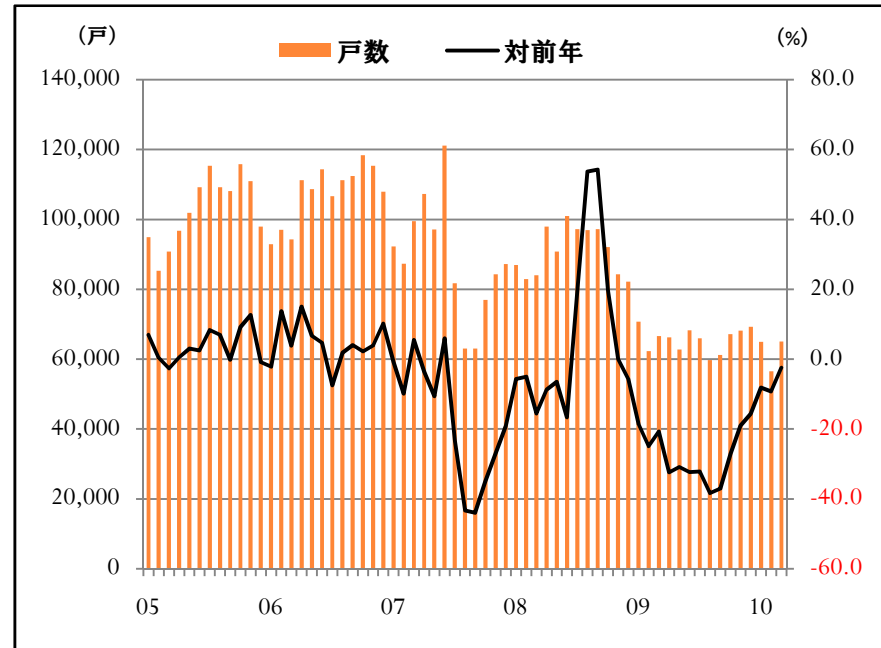
新規住宅着工戸数（近畿・2010年3月まで）



(出所) 国土交通省資料

- ・ 近畿の新設住宅着工件数は、3月は12,018戸、前年同月比+5.6%と16カ月ぶりの増加。  
4カ月ぶりの1万戸超。12,000戸を超えたのは14カ月ぶり。
- ・ 利用関係別の3月の対前年同月比を見ると、持家が+5.4%、貸家▲15.7%、分譲+23.2%。分譲のうち、マンションが+36.4%、一戸建て住宅が+5.8%。  
持家が6カ月連続、一戸建ては3カ月連続の増加。  
マンションは15カ月ぶりの増加。

新規住宅着工戸数（全国・2010年3月まで）



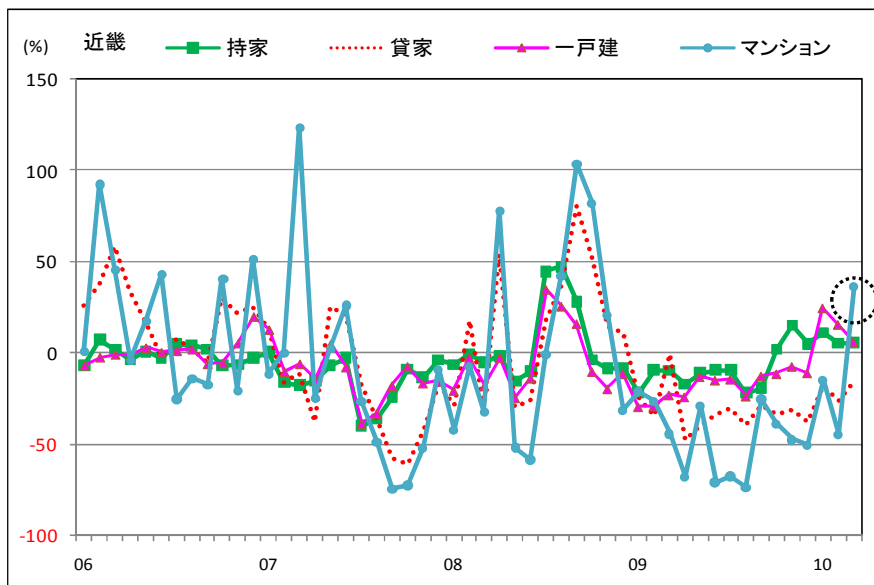
(出所) 国土交通省資料

- ・ 全国の新設住宅着工件数は、3月は65,008戸、前年同月比▲2.4%と16カ月連続の減少。前月(▲9.3%)からマイナス幅は若干拡大。
- ・ 利用関係別に見ると、持家+3.2%、貸家▲12.5%、分譲+8.8%。分譲のうち、マンションが▲4.3%、一戸建て住宅が+28.2%。  
持家が5カ月連続の増加。  
分譲が15カ月ぶりの増加。うち一戸建ては3カ月連続の増加。



# 住宅投資～近畿圏のマンション動向～

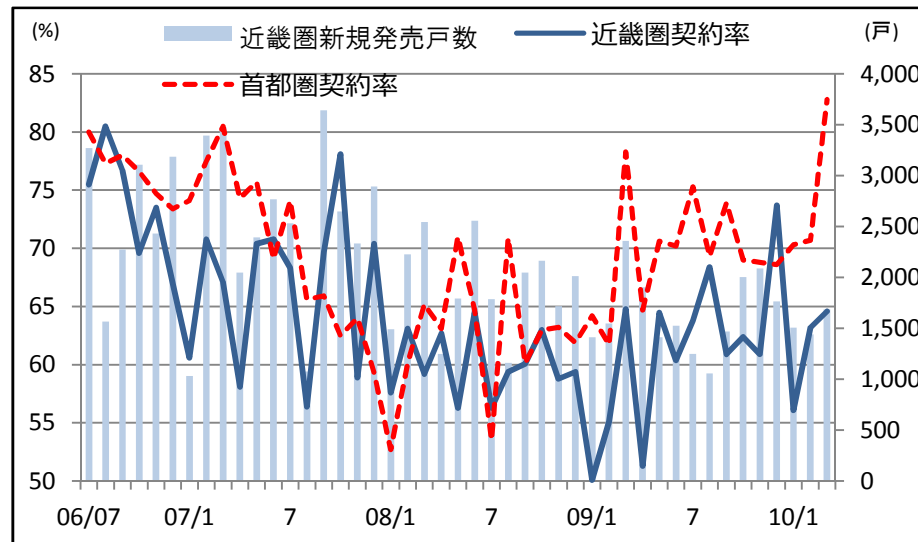
利用関係別 新規住宅着工戸数 前年同月比(近畿・10年3月まで)



出所:国土交通省

- ・持家は、06年度は4,000戸前後で推移していたが、07年7月頃から2,500戸前後に減少。一旦持ち直したものの08年後半から再び2,000戸台に減少。足下は、政策の効果もあり、4カ月連続で前年同月比プラス、水準は低い、持ち直しの動きが見られる。
- ・分譲のうち一戸建ては、足下、3ヶ月連続でプラス。政策の効果もあり、水準は低い、持ち直しの動きが見られる。
- ・分譲のうち、マンションの新規着工戸数は09年6-8月の3ヶ月間、1,000戸を割り、大きく落ち込んだが、11月以降、1,000戸台で推移。最悪期は脱したと考えられる。3月の新規着工戸数は3,190戸、3,000戸を上回ったのは23カ月ぶり。
- ・先行きは、住宅版エコポイント、贈与税措置等、大規模な経済対策の効果期待される。

マンション契約率及び新規発売戸数(2010年3月まで)



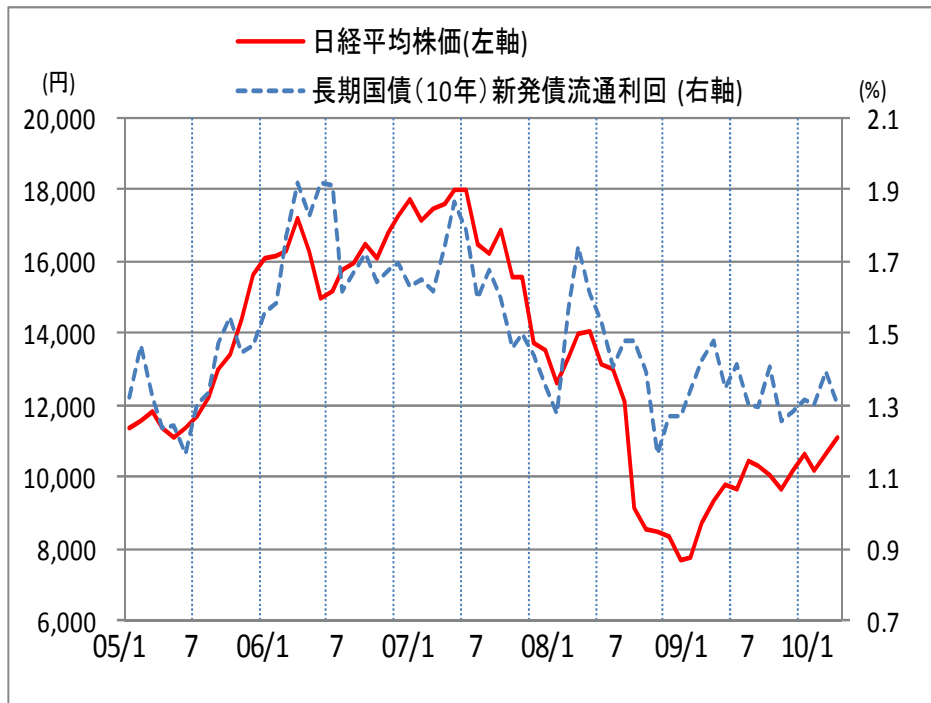
出所:不動産経済研究所資料

- ・近畿のマンション契約率は、09年に入り大きく落ち込み、50%台が続いたが、足下、水準は低いものの60%超で安定していた。しかし1月の契約率は56.1%と、8カ月ぶりに60%を割り込んだ。3月は64.6%。
- ・販売在庫は高水準ではあるものの、減少傾向。3月末は4,878戸。
- ・新規発売戸数は、8月の1,057戸を底に3カ月連続で増加していたが、12月から再び減少。08年、09年とも20,000戸/年を割り、91年以来の低水準が続く。先行き一定数の販売が予定されているが、これは延期された販売がここにきて実施されているといった側面もある。
- ・雇用所得環境が改善せず、近畿の人口も伸び悩む。政策効果も未だ見えず、近畿のマンション販売は先行き不透明な状態が続く。
- ・一方、首都圏は、価格が下がっていること、人口の流入が続いていることもあり、近畿と比べると契約率は高い傾向にある。



## ～株式・長期金利～

日経平均株価(期中平均)・長期国債新発債流通利回(月末)  
(2010年4月まで)

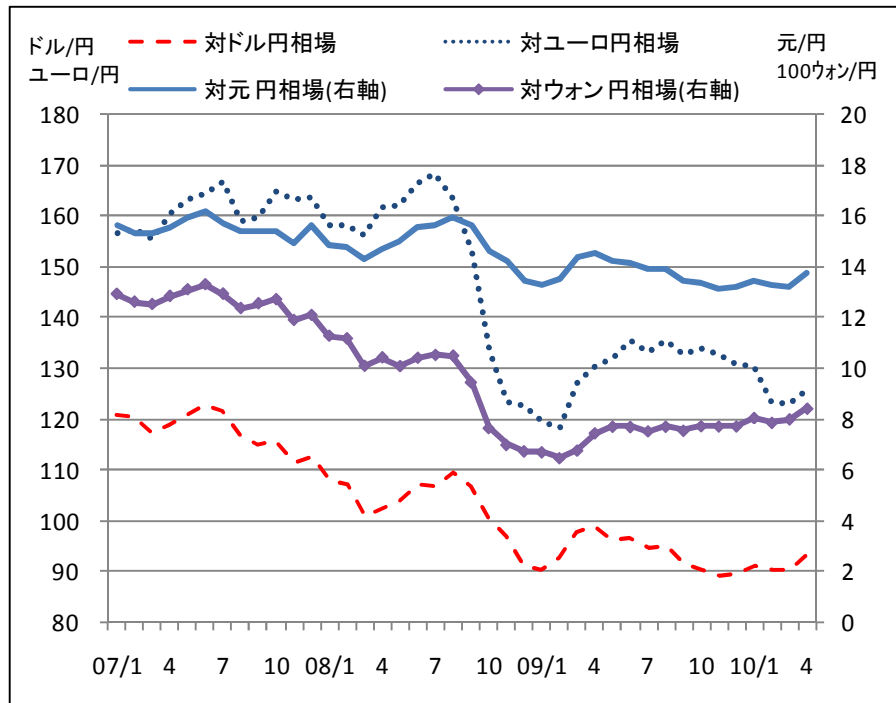


(出所) 日本経済新聞社

- ・4月の日経平均株価(期中平均)は10671.49円で、3月より468.28円の上昇。
- ・4月末の長期国債(10年)新発債流通利回りは、年率1.301%、3月末から0.094%低下。

## ～為替相場～

為替相場の動き(期中平均値・2010年4月まで)

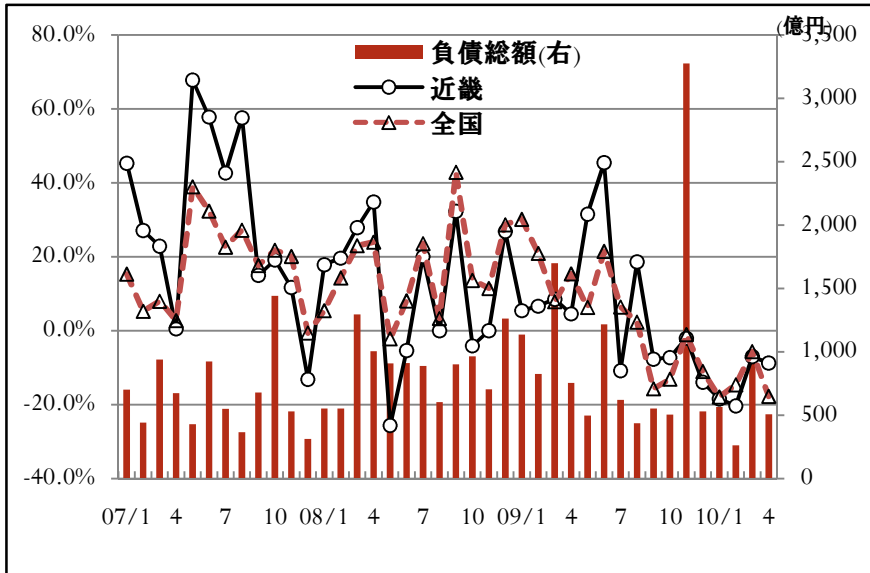


(出所) 日本経済新聞社、三菱UFJリサーチ&コンサルティング

- ・4月の対ドル円相場(期中平均)は93.41円で、3月より2.89円の円安。
- ・対ユーロ円相場は125.6円で、3月より2.64円の円安。
- ・対元円相場は13.67円で、3月より0.42円の円安。
- ・対ウォン円相場(100ウォンにつき円)は8.39円で、3月より0.52円の円安。

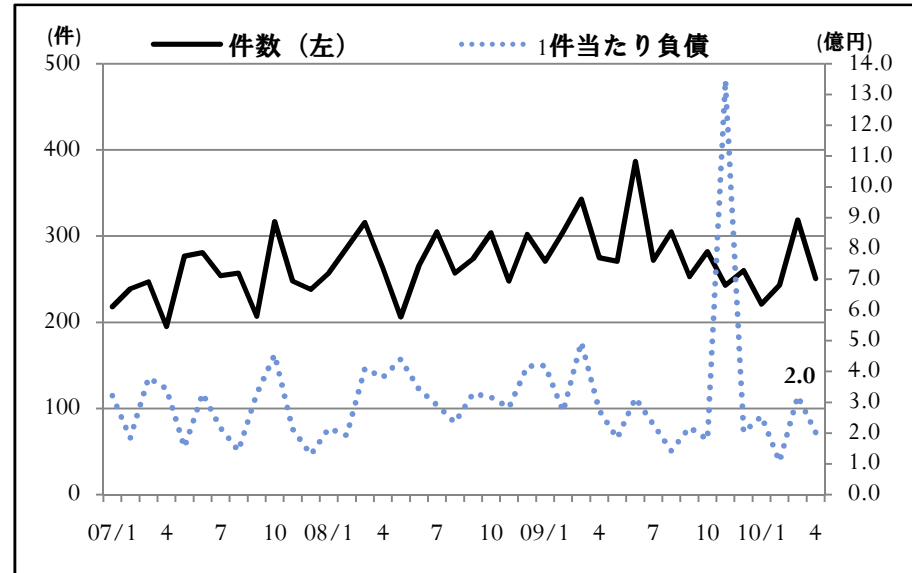
# ～倒産～

倒産件数前年同月比・負債総額の推移（10年4月まで）



- ・ 2010年4月の近畿の倒産件数は251件。
- ・ 近畿の負債総額は507億円  
(前年同月比▲32.8%、前月比▲50.4%)。
- ・ 全国の倒産件数は962件(前年同月比▲17.7%)。  
全国の負債総額は、2,545億円(前年同月比▲49.8%)。

近畿の倒産件数と1件当たり負債額の推移



- ・ 4月の近畿の倒産件数は、前年同月比▲8.7%と、8カ月連続で前年同月を下回る。
- ・ 負債総額は5カ月連続で前年同月を下回る。
- ・ 1件当たり負債額は2億200万円、4月としては最小を記録。

(出所) 帝国データバンク

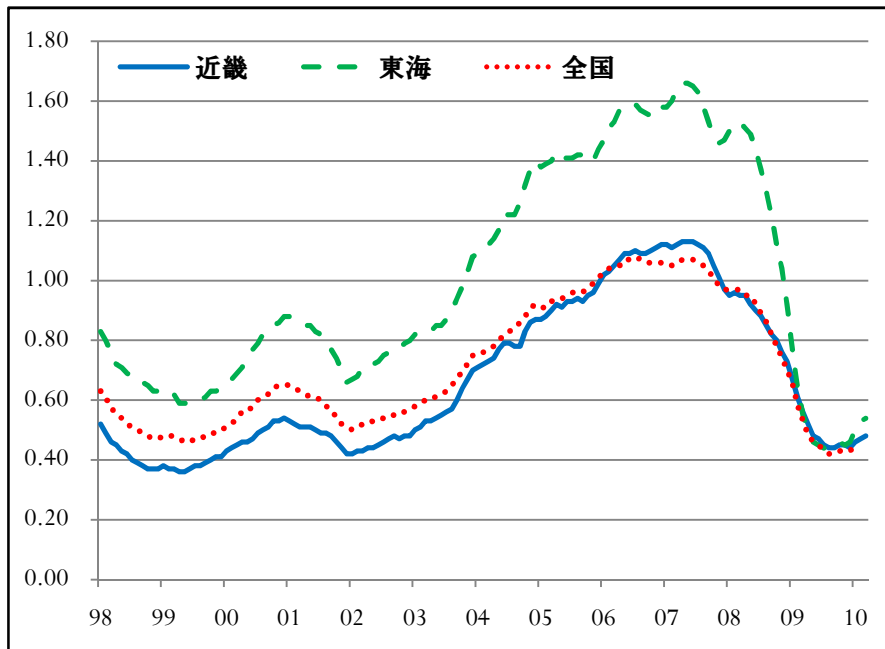
2010年4月以降の近畿の大型倒産

(負債総額・億円)

4月	第一石産株	和歌山	砕石業	101
	桑田硝子株	兵庫	板硝子卸	73
	東海工業株	大阪	土木建築工事	22
	株カネウン	大阪	食肉卸	22
	ヤマトコーポレーション株	兵庫	ビルメンテナンス	21
	長見ヒューム管株	大阪	コンクリート製品製造	21
	クリエイト物流システム株	大阪	家具・建具卸	10
	株Kiss-FM KOBE	兵庫	FMラジオ放送局	6
	5月	大豆油糧株	兵庫	大豆専門商社

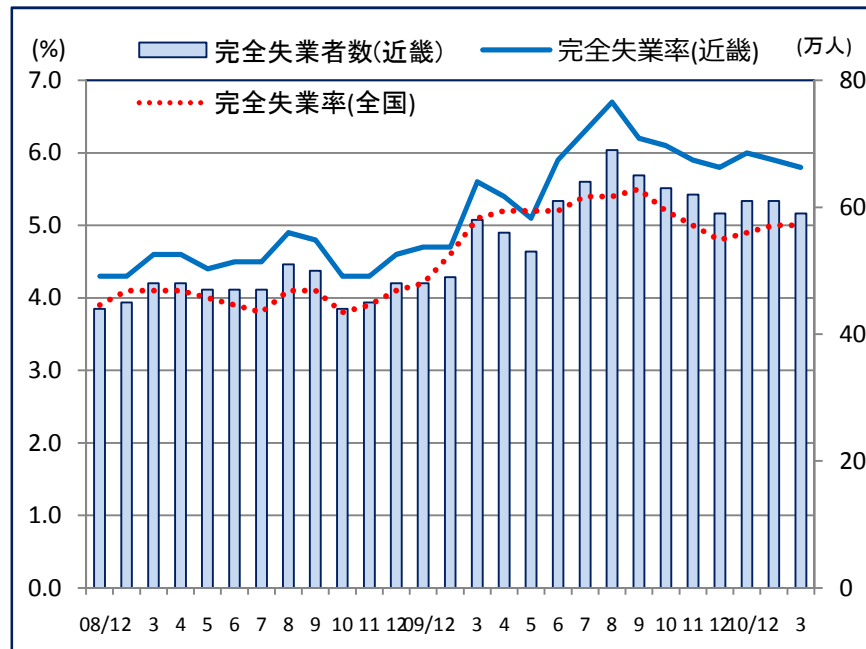
# ～雇用～

有効求人倍率の推移（季節調整値・2010年3月まで）



(出所) 厚生労働省統計

完全失業率の推移（原数値・2010年3月まで）



(出所) 総務省統計

地域別有効求人倍率（2010年3月：下段は前月比）

全国	北海道	東北	南関東	北関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
0.49	0.36	0.39	0.48	0.50	0.57	0.54	0.48	0.61	0.58	0.42
0.02	▲0.02	0.01	0.01	0.03	0.03	0.01	0.01	0.01	0.03	0.01

・2010年3月の近畿の有効求人倍率は、前月から0.01ポイント上昇の0.48倍。3カ月連続の上昇。

63年以降の最低値は99年4～5月の0.36倍。

・全国は0.49倍で、前月から0.02ポイント上昇。

地域別に見ると、北海道で低下、その他の地域はすべて上昇。

(注)09年12月以前の数値は、10年1月分公表時に新季節調整により改訂されている。

・2010年3月の近畿の完全失業率(原数値)は5.8%で、前月(5.9%)から0.1ポイント改善。2カ月連続の低下。全国は5.0%で前月から横ばい。

・全国3月の季節調整値は5.0%、前月(4.9%)から悪化。

・全国の2009年平均の完全失業率(速報)は5.1%で、08年の4.0%から大幅な悪化となった。

・83年以降、失業率の最悪の値(原数値)は、近畿7.1%(02年7-9月期) 7 全国5.5%(02年4-6月期、03年1-3月期、4-6月期)。